中小企業等の脱炭素経営を支援します

豊田市 脱炭素スクール vol.5

SINCE 2021



国際的なカーボンニュートラルの潮流の中で、脱炭素化への対応を、経済成長の制約やコストと考える時代は終わり、成長の機会と捉える時代に突入しました。

脱炭素社会を実現するためには、それぞれの事業者が、それぞれの道を探っていく必要があります。

豊田市では、中小企業向けに、脱炭素経営のポイントや省エネ推進・再エネ導入の実践手法を学び合う場「豊田市脱炭素スクール」を2021年に開校しました。

脱炭素経営のメソッドが詰まったスクールを契機に、企業の自主的な脱炭素化への取組が進みつつあります。

豊田市環境部環境政策課

豊田市西町3-60　豊田市役所環境センター　1階

TEL 0565-34-6650

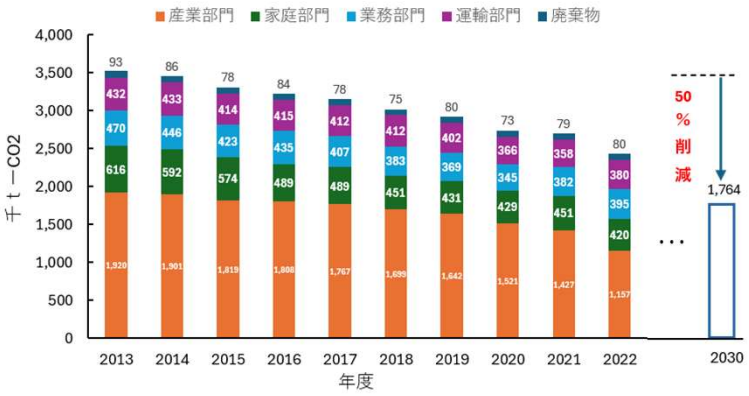
https://www.city.toyota.aichi.jp/sangyo/sogyokeiei/1073279/1044961.html

豊田市の状況

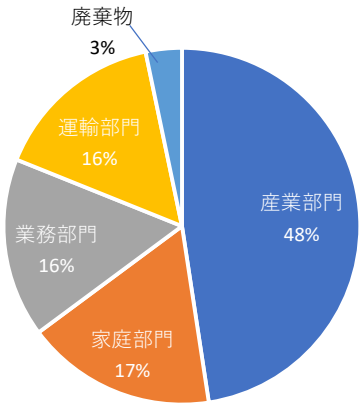
◆ ゼロカーボンシティに向けて

- 本市は、世界をリードするものづくり産業の中核都市としての顔を持ちながら、「環境モデル都市」に選定されて以後、低炭素社会の実現に向けて環境やエネルギーに関する先進的な取組を進めてきました。
- 2019年11月には、「2050年にCO_2排出実質ゼロ」を表明し、これまでの低炭素から脱炭素へ目標を引き上げました。2030年に2013年度比50%削減という目標を掲げ、市民・事業者・行政が一丸となって、2050年ゼロカーボンシティに向けた取組を加速化しているところです。
- 本市では、産業部門のCO_2排出量が約48%を占め、全国に比べて大きな割合となっています。業務部門も約16%を占めており、2050年ゼロカーボンシティ実現に向けては、市内の産業・事業活動からの更なるCO_2削減が必要となっています。

市域におけるCO_2排出量推移



市域におけるCO_2排出量の部門別割合（2022年）



◆ サプライチェーン全体での脱炭素化の動きが加速

- 産業界では、グローバルに活動を行う大企業を中心に、気候変動対策が経営上の重要課題と認識され、脱炭素経営に取り組むことが、リスクの回避、成長へのチャンスとして捉えられるようになってきました。
- 近年、ライフサイクルアセスメント（LCA）の観点から、自社の脱炭素だけでなく、原材料製造時や製品使用時等も含めたサプライチェーン全体で、CO_2排出量の見える化や脱炭素化を目指す動きが広がっています。サプライチェーンを支える市内の中小企業においても、脱炭素化に向けた取組が求められています。



サプライチェーン排出量とは・・・
事業者自らの排出だけでなく、事業活動に関係するあらゆる排出を合計した排出量。
つまり、原材料調達・製造・物流・販売・廃棄等、一連の流れ全体から発生する温室効果ガス排出量のこと。

サプライチェーン排出量	＝	Scope1排出量	＋	Scope2排出量	＋	Scope3排出量
		事業者自らによる温室効果ガスの直接排出（燃料の燃焼、工業プロセス）		他社から供給された電気、熱・蒸気の使用に伴う間接排出		Scope1、Scope2以外の間接排出（事業者の活動に関連する他社の排出）

出典：環境省資料

豊田市脱炭素スクールとは

- 本市が目指す、2050年「ゼロカーボンシティ」の実現に向けて、市内企業の経営者を中心に、自主的に脱炭素化への取組を進めていくため、脱炭素経営のポイントや省エネ推進・再エネ導入の実践手法を学び合う場として開校しました。

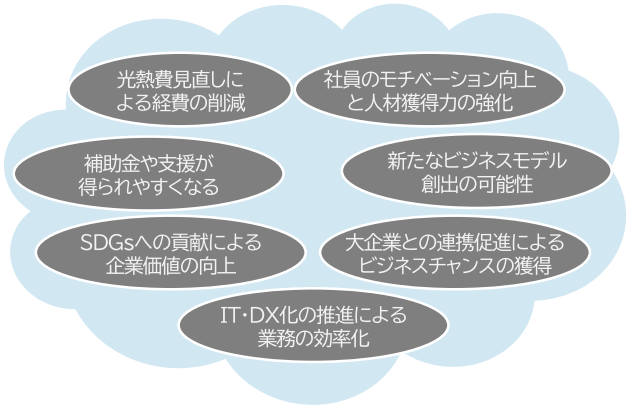
スクール概要

対象企業	豊田市内企業（業種は問いません）
期　間	年間8回の連続講座（11月開講） ※第1期・第2期は全10回で実施
形　式	脱炭素経営及び削減対策の基礎知識やポイント等を学ぶ「講義」、自社のCO_2削減効果の考え方や事業計画の組立てを学ぶ「演習」を組み合わせ、より実践的に学べる内容です
修了条件	①全ての講座を受講 ②本講座成果のとりまとめ・発表 ③企業としての本講座成果の発信
主　催	豊田市
共　催	豊田商工会議所
協　力	豊田信用金庫

こんな企業が参加しています

- ✓ サプライチェーンを通して脱炭素化に向けた取組が必要に迫られている企業　等
- ✓ 脱炭素経営に興味があり、脱炭素化に向けた目標や取組を発信したい企業　等
- ✓ 企業等の脱炭素経営に関心がある、融資等を検討している金融機関　等

スクールに参加するメリット



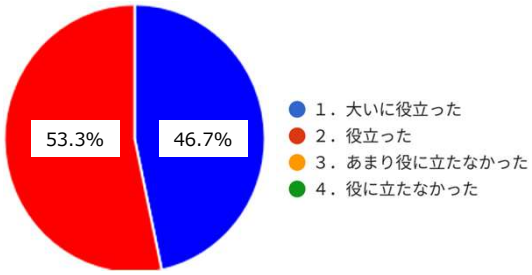
スクール参加企業の声

第5期スクール参加企業に、スクール終了後にアンケートを実施しました（13社 15名が回答）。

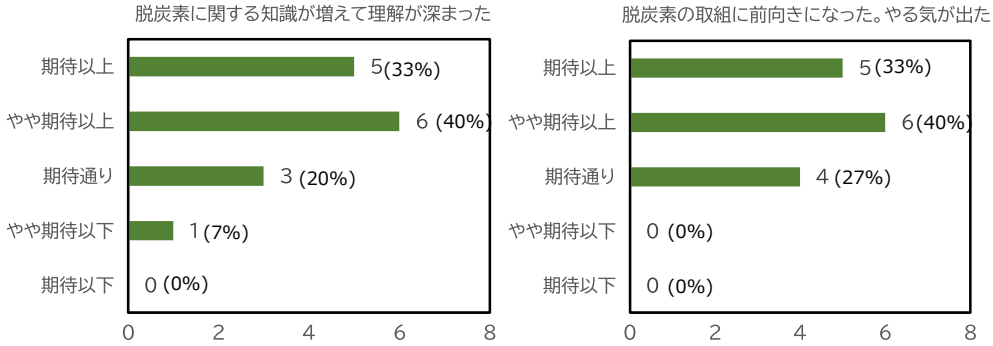
回答された全企業が、自社の脱炭素経営の推進に、スクールが「大いに役立った」、「役立った」と回答しています。

また、回答された多くの企業が「相談できる仲間ができた」、「脱炭素の取組に前向きになった、やる気が出た」と回答しています。

＜貴社の脱炭素化推進に本スクールが役立ったか＞



＜スクールに対する評価＞



＜その他 意見＞

- ・自社で検討している対策で先行会社のメリットデメリットが聞けた。
- ・製造業ならではの悩みや工夫を知れた点が非常に有益でした。　等

「豊田市脱炭素スクール」を開催！

「豊田市脱炭素スクール」では、約1年間で脱炭素経営の基礎から応用まで学びます。本スクールは2021年に開校し、製造業をはじめ、運輸業や建設業、サービス業など、脱炭素経営に前向きな様々な業種の企業が参加しています。すでに、第1期生～第5期生、延べ65社の企業が本スクールを修了されています。

各社、講義と演習（グループワーク）を通して、自社の脱炭素化に向けた事業計画である「脱炭素経営アクションプラン」の作成に取り組みました。スクールへ参加した企業同士がネットワークを形成しながら学び合いを重ね、全てのカリキュラムを修了され、最終回では修了式及び成果発表会を開催しました。

スクールの主な流れ

- 全体アドバイザー・講師が、スクール全体を通してアドバイス・支援を行います
- スクール参加企業同士で意見交換・相談しながら、自社のアクションプランを作成します

（年間スケジュール）

11月 12月 1月 2月 3月

Start ! Step 1 Step 2

気づきを得る
・脱炭素経営の最新の動向や視点に関する講義
・削減対策の考え方や対策ポイントに関する講義
・脱炭素経営の実践企業の事例紹介　など

自社の状況を知る
・自社のエネルギー使用量の見える化　に関わる講義、演習
・自社課題の分析　など

脱炭素の方法を学ぶ
・省エネ余地／再エネ導入／グリーン電力／Jクレジット等の脱炭素方法の講義、演習
・脱炭素の施策アイデアの整理・創出　など

Start ! ■開校講演会



「脱炭素経営の動向と視点を知る」と題し、畑中校長から講演
- グローバルな視点からの気候変動、脱炭素の潮流
- 気候変動とビジネスの関わり など

参加企業みんなで、脱炭素（環境）、体制や人材（社会）、コストや新規展開（経済）を統合した経営戦略を、自らの力で立てていただきます。

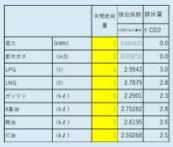
［スクール校長］
畑中 直樹 氏
博士（環境科学）　大阪大学大学院工学研究科招聘教員
豊田市総合計画審議会委員
総務省地域力創造アドバイザー　北海道松前町参与
ひょうご持続可能地域づくり機構（HsO）代表理事等歴任

Step 1 ■自社の状況を知る



「自社におけるCO2排出量（Scope 1, 2）の見える化」をテーマに、脱炭素経営を実施する上で最も大切なポイントをレクチャー

スクールの参加企業同士で自社のエネルギー使用量、CO2排出量等を相互紹介し、自社の脱炭素レベルを確認





Step 2 ■脱炭素の方法を学ぶ



- エネルギー管理士など専門家から、中小企業で取りくむべき省エネや再エネ導入、それらによる経費削減やCO2排出量削減方法、削減目標設定の事例、ノウハウ、サプライチェーンのCO2排出量（Scope 3）算定方法などを講義
- 専門家への現状改善の相談会

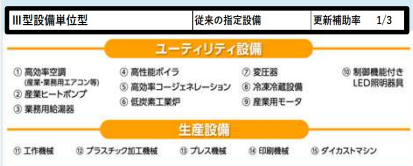
■自社の脱炭素取組推進体制を検討する

各社の組織体制を相互紹介し、脱炭素の取組を活性化するための組織づくりを考える
・経営層のコミットメント
・社内各部署の役割分担
・取り組みを継続するためのしくみ　など



■公的補助メニュー、補助金申請方法を理解する

・経済産業省、環境省、愛知県の公的補助メニューの紹介
　- 工場・事業場型補助金　- 電化・脱炭素燃転型補助金
　- 設備単位型補助金　- 省エネお助け隊、伴走型省エネ診断　など
・豊田市から市の補助制度などを紹介





第1期生～第5期生のみなさんは、自社の脱炭素化に向けた事業計画や取組等を発信するとともに、脱炭素経営の実践やその後のPR活動に取り組まれています。

～ Column ～

皆さんの会社は、どのような経緯で脱炭素経営の推進を始めましたか？「取引先からの要望」や「光熱費や燃料費の経費削減」といった様々な理由があるかと思います。豊田市脱炭素スクールでは、このようなリスクへの対応としての「守りの脱炭素経営」から一歩進み、「脱炭素」を企業の成長戦略のチャンスとして捉える「攻めの脱炭素経営」を推奨しています。

具体的には、攻めの脱炭素経営に取り組む上で重要なのは、「社外に積極的にPRすること」です。脱炭素経営を社外へPRすることで、「新規顧客の開拓」や「知名度・認知度の向上」、「新たな資金調達の獲得」などにつながります。

本スクールでは、攻めの脱炭素経営を進める手段として、SBT認定*1、豊田市SDGs認証制度*2、とよたSDGsパートナー*3へのコミット等、様々なイニシアティブへの参加方法を紹介しています。ぜひ、スクールにご参加ください！

SCIENCE BASED TARGETS
DRIVING AMBITIOUS CORPORATE CLIMATE ACTION

※1）SBT認定とは、パリ協定が求める水準と整合した、企業が設定する温室効果ガス排出削減目標のこと

豊田市認証 SDGs Certification　とよた SDGs パートナー

※2）豊田市SDGs認証とは、豊田市が定めるSDGsに関連する取り組みを行っている団体や企業を認証する制度
※3）SDGsパートナーとは、豊田市と企業等がSDGs達成に向けた活動を相互に連携しながら進めることを示す取組

4月　5月　6月　7月　8月

Step 3　GOAL！

脱炭素経営アクションプランの組み立て

＜講義＞　脱炭素経営アクションプランの作り方

- CO2排出量算定と削減目標設定
- 削減対策（省エネ・再エネ導入、Jクレジットなど）の検討
- 削減効果の想定
- 推進体制等の検討　等
- 脱炭素経営のメリット
- SBT認定のための計画作り　など

＜グループワーク＞

- 各社検討内容や課題の相互紹介、意見交換

成果発表

修了式／成果発表会

スクール修了

Step 3 ■脱炭素経営アクションプランを作る

スクール修了生による自社の取組内容の紹介や意見交換を通して、具体的な計画例を知る





- 脱炭素経営ビジョン
- 現状の排出量と削減目標
- 脱炭素取組のメリット
- 脱炭素取組方法
- 推進体制（業務所掌分担）
- 実施工程

などを整理し、グループで意見交換

■中間報告会



各社、アクションプランの内容を相互紹介し、講師の助言やグループでの意見交換をもとに計画をブラッシュアップ

個別相談やメール等でもフォロー

■現場見学会

脱炭素の取組を進めている豊田市内の先進事例の現場を見学し、計画管理の具体的方法などを実地で確認、議論し、自社の脱炭素取組計画をさらにブラッシュアップ



■内部成果発表会

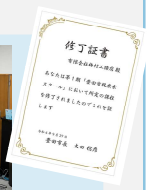
全参加企業がアクションプランをスクール内で発表、スクール校長から各社へメッセージ



Goal！ ■修了式、成果発表会

市長から修了証授与







自社の今後のアクションプランを発表



市長やスクール校長、市関係者等から講評

■さらに先へ！

SBT認定やScope3の排出量算定などにチャレンジしたい企業には、個別相談なども行います（第4期からS・Sコースとして実施　11ページ参照）。





本スクールでは、スクール生同士が交流できる会を開催するなど、参加企業同士のコミュニケーションも大切にしています。
こうした交流から、企業間で話しやすい環境が生まれ、連携や協力へとつながっています。

脱炭素経営の取組事例（第1期生の皆さん）

※記載内容はスクール在籍時の情報を掲載しています
最新情報は各企業へお問合せください

株式会社 市川鉄工所

所在地：豊田市宝町
業種：製造業　従業員数：66名

豊田市認証 SDGs Certification SILVER

脱炭素経営方針

- 夕飯のネタになるカーボンニュートラル
- 子供たちが学校でCNの話を聞いてきたときに、社員皆が自社の取り組みを夕飯の場で話せるような、そんな活動をしたい

削減目標
2019▶2030
50%削減

脱炭素スクール受講期間中にSBTiの認定も取得でき、当社の取り組みは飛躍的に進みました。心から参加してよかったと感じています。

とよた SDGs パートナー　SCIENCE BASED TARGETS



取締役社長 市川 暢啓 さん

脱炭素に向けた取組

① コンプレッサーの適正化・ループ化

CO_2排出量の40%を占めるコンプレッサーの元圧を適正化・配管のループ化を行いました。会社全体で前年度比18%減に繋がっています。

② カーボンフリー電力の購入

本社棟及び工場で使用する電気について、2022年から、再生可能ｴﾈﾙｷﾞｰ由来のｸﾞﾘｰﾝ電力契約に切り替えています。

有限会社 梅村工務店

所在地：豊田市亀首町　業種：建設業　従業員数：7名

豊田市認証 SDGs Certification BRONZE

社内のCO_2削減について考える機会となりました。将来像をふまえ課題の整理に役立ちました。



代表取締役 梅村 裕子 さん

脱炭素経営方針

- 自然と寄り添う建物と暮らしの提案で持続可能な社会を目指します
- 地球環境にも優しく、住み続けられるまちづくりをすることで地域にも貢献し、頼りにされる工務店で在り続けます

削減目標
2019▶2030
43%削減

とよた SDGs パートナー

脱炭素に向けた取組

① DXの推進と営業時間の短縮

DXによる作業効率化で、年間377時間の営業時間短縮が実現。光熱費削減、CO_2削減(1.32t-CO_2/年)、働き方改革等、多様な効果につながっています。

② 薪ストーブの導入



夜間電力による蓄熱暖房を見直し、薪の販売というわが社ならではの事業を活かして、薪ｽﾄｰﾌﾞの導入を計画しました。

豊田電気 株式会社

所在地：豊田市元町
業種：製造業　従業員数：62名

豊田市認証 SDGs Certification BRONZE

とよた SDGs パートナー

SCIENCE BASED TARGETS

脱炭素経営方針

- 自社のみならず顧客にも脱炭素活動を提案し、
- 持続可能な社会に貢献します

削減目標
2018▶2030
49.5%削減

最初は脱炭素の取り組み方が分かりませんでしたが、顧客に提案する方針で営業にも活用することができました。



管理部 安藤 里美 さん

脱炭素に向けた取組

① 計画的なEV・PHV導入

移動型産業という事業特性から、交通の脱炭素化が重要な課題と認識し、購入後一定期間経過した営業車のEV・PHV化を計画的に進めています。

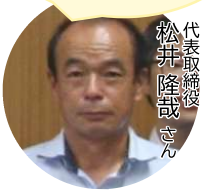
② 全社一体での実施体制

管理部を筆頭に、全部署の横断定例会議を実施し、計画的に取組んでいます。

株式会社 日東コンクリート工業

所在地：豊田市田籾町　業種：製造業　従業員数：6名

脱炭素スクールに参加して、脱炭素行動のスタートが出来ました。まずは、低炭素型製品の提供、更に脱炭素型製品の提供に対する道筋が見えたと確信しています。



代表取締役 松井 隆哉 さん

脱炭素経営方針

- SDGs17の目標を重視し、再生可能資源を最大限に有効活用し、製品製造から製品出荷及び廃棄(再生処理)までを考慮した上で、脱炭素(低炭素)型コンクリート製品を市場提供します

削減目標
2019▶2030
34%削減

とよた SDGs パートナー

脱炭素に向けた取組

① 太陽光発電パネルの設置

電力によるCO_2排出が多いため、市補助金を活用して太陽光発電33kW分を設置、自社活用しています。災害時は地域の電源供給基地として活用します。

② 低炭素型コンクリート製品

自社の脱炭素の取組の見える化し、低炭素型ｺﾝｸﾘｰﾄ製品として提供していきたいと考えています。

株式会社 ユーネットランス

所在地：豊田市深田町　業種：運輸業　従業員数：550名

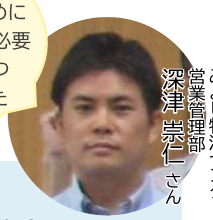
豊田市認証 SDGs Certification BRONZE

脱炭素経営方針

- あらゆる人とのつながりを広げながら、「持続可能な開発目標の達成」・「脱炭素社会の実現」に向けた企業活動を目指します

削減目標
2013▶2030
46%削減

CO_2排出量を見える化し、低減のためにどのような取り組みが必要か、社員が興味を持つきっかけになりました



みよし物流センター 営業管理部 深津 崇仁 さん

脱炭素に向けた取組

① ダブル連結トラックの導入拡大

ﾀﾞﾌﾞﾙ連結ﾄﾗｯｸの導入拡大を進めています。25mﾀﾞﾌﾞﾙ連結ﾄﾗｯｸの運行は市内初の取組で、注目を集めています。



② バイオディーゼル燃料の利用

2023年3月よりバイオディーゼル燃料(廃食油の再利用燃料)の利用を開始しました。現在、2ルートでの使用を開始しています。



株式会社 アイサク

- 機器更新による削減、省エネ活動による削減、再エネ採用による削減にて、無理なく、我慢することなく、“2017年度比50%削減”を2030年度までに実現する。

2017▶ 2030**50%** 削減



代表取締役 須藤 昭一 さん

エヌ電子工業 株式会社

- 人にやさしい製品を目指す自社目標と併せて、将来的に人類の脅威となる地球温暖化を抑えるためCO_2削減に継続的に取り組む。
- 新商品の開発にあたっては、省エネ構造を追求し、電力消費を最小限にする設計を徹底する。
- 新社屋への移転時には、省エネに加え、再エネも考慮し、脱炭素経営を継続する。

2019▶ 2030**40%** 削減



執行役員 髙山 亨 さん

株式会社 キョウエイファイン

豊田市認証 SDGs Certification SILVER

- 営業所への太陽光パネル設置及び再エネに変更する。倉庫内照明は水銀灯からLEDへ順次変更する。トラックは低燃費車両の購入、営業車は、電気自動車へ順次交換する。

2020▶ 2030**15%** 削減

とよた SDGs パートナー



代表取締役 坂元 貞仁 さん

新明工業 株式会社

とよた SDGs パートナー

- 脱炭素の取組みで環境に優しい物造り、提供するサービスまで、クリーンな企業を目指す。

2021▶ 2030**55%** 削減



安全健康環境推進室 讃渡 英樹 さん

豊田汽缶 株式会社

- カーボンニュートラルに向けて、社内を知る事から始め、社員全員が取組む事を目指し推進していく。
- お客様に設備の省エネ提案を進め、技術と知識で貢献していく。

2020▶ 2040**60%** 削減



代表取締役社長 勝田 剛教 さん

株式会社 豊栄商会

豊田市認証 SDGs Certification BRONZE　SCIENCE BASED TARGETS

- 自社内の脱炭素のみならず、トヨタグループ各社への製品供給をしていく中で各社のCO_2排出削減に貢献すべく、製品の開発を行う。

2013▶ 2030**50%** 削減



開発研究室 三浦 賀津雄 さん

株式会社 アイミクロン

豊田市認証 SDGs Certification BRONZE　SCIENCE BASED TARGETS

- 再エネ・省エネに取り組むことで、事業基盤の強化や人材獲得力の強化、企業の持続可能性を強化する。

2019▶ 2030**100%** 削減



代表取締役 長谷川 功 さん

おいでんエネルギー 株式会社

とよた SDGs パートナー

- 【Scope1】社用車3台中、営業車2台をEV化、作業車1台は買換えによる高燃費化を期待する。
- 【Scope2、3】2022年度内に小売りする電力すべてをCO_2排出係数0にする。
- 【Scope3】太陽光発電を更なる有効活用するために、EV及びV2H導入による余剰電力の有効活用をステークホルダーに提案する。

2019▶ 2030**77%** 削減



代表取締役 松原 俊介 さん

サンワインダストリー 株式会社

SCIENCE BASED TARGETS

- 脱炭素の目標達成に向け、CO_2排出量の削減活動をもって、職場環境の継続的改善を推進し、人にやさしく、地域社会や気候変動対策に貢献出来る企業を目指す。

2014▶2030**46%** 削減



安全・技能訓練センター 西川 喜和 さん

太啓建設 株式会社

豊田市認証 SDGs Certification GOLD　とよた SDGs パートナー

- 現状までの取り組みをベースに、「できる事からコツコツと」！

※事業の種別（オフィス・建設工事・不動産等）に応じて、現状を把握したうえで対象範囲を拡大する。

2016▶ 2030**26%** 削減



安全環境対策室 課長 牧野 利彦 さん

株式会社 ニフコ

とよた SDGs パートナー※

- ESGやSDGsの取組は、経営と一体になってこそ真の価値が発揮されると考える。今後もESG経営について社内への意識の浸透を図り、その姿勢や取り組みを社会へ明確に伝えていきたい。
- ニフコは、これからも事業を通じて社会に寄り添い、社会の困りごとを解決することによって、持続的な成長と企業価値の最大化を目指していく。

2020▶ 2030**42%** 削減

※（株）ニフコ名古屋工場にて登録



第一品質技術部 品質技術課 那須 万紀雄 さん

脱炭素経営の取組事例（第２期生の皆さん）

※記載内容はスクール在籍時の情報を掲載しています
最新情報は各企業へお問合せください

三河商事 株式会社

所在地：豊田市元城町　従業員数：187名
業種：小売業、電力事業（サービス業）

豊田市認証 SDGs Certification SILVER

脱炭素経営方針

- 地域環境に貢献することで地域の皆様の暮らしを笑顔に
- 率先して地域のCO_2を削減していき、地域の環境に貢献する

削減目標
2013▶2030
50%削減

脱炭素スクールを受講し、講師からのアドバイスや受講者との意見交換で、「まずはできることから実践していくこと」の後押しになりました！



とよた SDGs パートナー

早川 康精 専務取締役さん

脱炭素に向けた取組

① 照明LED化・太陽光増設

本社、支店、営業所等、全6拠点の全ての照明を2025年までにLEDに変更予定。また、ソーラーカーポートの設置や事務所屋上に太陽光を設置するなど自家消費電力の最大化に努めます。

②全社員による参加型の脱炭素経営

環境意識を高めるための研修を実施するなど、社員全員が参加する活動を行って、社員が自発的にCO_2削減のための行動ができる仕組みを作ります。



豊田鋸加工所

所在地：豊田市上原町　業種：サービス業　従業員数：9名

スクールでは、脱炭素経営のポイントや省エネ推進・再エネ導入の実施手法を学びました。他社との交流や意見交換は大変有意義な時間でした！

脱炭素経営方針

- これからの地球のために、子どもたちの未来のために、個人事業でも無駄なCO_2排出量を削減！
- 従業員とのコミュニケーションを密には図り、良好な関係を構築しながら、一丸となって脱炭素の活動に取り組みます。

削減目標
2021▶2031
64%削減



代表 山本 雄介さん

脱炭素に向けた取組

①太陽光発電エネルギーを自家消費化

売電用として設置した太陽光パネルが2031年に売電契約終了となるため、自家消費に切り替えることで、電気について再エネ100%を目指します。

② 太陽光発電自家消費に伴うV2H導入

太陽光パネルで発電したエネルギーを効率的に使用できるように、V2Hの設置を検討しています。余った電力をEV車に供給して利用します。

株式会社 マルコオ・ポーロ化工

所在地：豊田市金谷町
業種：建設業　従業員数：45名

とよた SDGs パートナー

豊田市認証 SDGs Certification BRONZE

脱炭素経営方針

- カーボンニュートラルは経費削減にも繋がる意識を共有する。
- エネルギー使用量の見える化、脱炭素に向けての目標をたてるなど会社員が取り組みを行える環境をつくる。

削減目標
2021▶2030
44%削減

脱炭素に向けて、様々な取組を行えるよう、会社員一人一人の意識を高めていきます。
また、事務所だけでなく現場の脱炭素化にも対策を進めます。



常務取締役 太石 和行さん



総務部 田中 なごみさん

脱炭素に向けた取組

① 太陽光パネル・断熱材の使用

太陽光パネルを設置し再エネ導入を図る。また、本社の移転を検討しているが、移転に伴って建物（事務所）の断熱化など省エネ機器の導入を図ります。

②工事現場に蓄電式発電機を導入

工事におけるエネルギーの供給に再生エネルギーを活用します。また、使用する資材の環境対応品の推奨し、最終目標は建設発生資材を再利用します。

株式会社 豊田ガーデン

とよた SDGs パートナー

- 花と緑を通じて社会に貢献し、お客様を幸せにします。
- スクールで学んだ省エネ・再エネを活用する「緩和策」を推進して、環境に配慮した経済活動を行っています。
- 木陰は気候変動の影響を回避・軽減させる「適応策」です。花や緑を用いて、心地よい空間を育てていきたいと思います。



常務取締役 天野 洋平さん

2008▶2030 50%削減

株式会社 松原電機

- セミナーやワークショップを開催し、お客様へ情報提供を行いながら地域にナレッジを広め、地域社会へ貢献します。
- 事業ごみの運搬・廃棄方法、販売した製品の廃棄方法、太陽光パネルの適切な処分方法等を工夫し、Scope3の取り組み実施を検討をします。
- 太陽光発電システム、V2H、蓄電池を提案することで地域の脱炭素化に貢献します。



エネルギーマネージメントアドバイザー 盛田 涼さん

2022▶2030 36%削減

アール・ティ・エンジニアリング株式会社

- 地球温暖化対策に配慮したモノづくりを目指して、実現可能な目標を設定し、継続的な改善を図ります。
- 空調機の更新に、「豊田市カーボンニュートラル省エネ生産設備導入促進補助金」を活用しました。
- 設備のDX化を進め、生産設備の生産性向上による稼働時間短縮を目指します。



製造技術課係長 近藤 康洋さん

2020▶2030 50%削減

株式会社 市川メッキ

とよた SDGs パートナー

- 月初にミーティングを実施し、脱炭素スクールの学びを基に、省エネ、再エネ、脱炭素活動に対する意識の浸透と取組について話し合っています。
- 薬品濃度とメッキ時間の見直しによって、メッキライン、ボイラーの稼働時間の短縮を図っています（電気・灯油のCO_2排出を11t- CO_2/年削減予想）。

SCIENCE BASED TARGETS

豊田市認証 SDGs Certification BRONZE



代表取締役 本多 るみ子さん

2017▶2030 60%削減

脱炭素経営の取組事例（第３期生の皆さん）

※記載内容はスクール在籍時の情報を掲載しています
最新情報は各企業へお問合せください

三協高分子 株式会社

所在地：豊田市土橋町
業種：製造業
従業員数：87名

脱炭素経営方針

- 客観的数値を用いて脱炭素経営を見える化することにより、社是「信用第一」を深化させる。

削減目標
2013▶2030
54%削減

豊田市認証 SDGs Certification BRONZE

『脱炭素とはすなわち利益である』、本スクールでわかりやすく学ぶことができました。


総務部 部長 兵藤 裕子さん

脱炭素に向けた取組

① 射出成型機等の更新、ハイブリッド車の投入

全14台の射出成型機等を2027年までに電動化、また2030年までに全車両をハイブリッド車または電気自動車に更新することを目指します。

② オフィス電力需要削減

工場の建替えを2024年から開始します（2026年完了）。新工場建設に伴い事務所集約を計画し、業務都合により集約し切れない事務所の電力削減を目指します。

有限会社 近藤工房

所在地：豊田市豊栄町　業種：建設業　従業員数：22名

豊田市認証 SDGs Certification BRONZE

脱炭素経営方針

- 2030年までに46%の削減する。
- SBT認定の取得を目指し、認定制度を活用して脱炭素目標を達成する。

脱炭素に向けて良い刺激を受け様々な事を知ることができました。温暖化が体感として分かる中、少しでもよい環境を維持するため色々行いたいです。


代表取締役社長 近藤 寛峰さん

削減目標
2023▶2030
43%削減

脱炭素に向けた取組

① 機械設備の省エネ化

新機械の導入を検討する一方で、古い設備の更新や増えた機械が出すCO_2のバランスを取っていくことや空調等の省エネ化に力を入れていきたいです。

② 車両ハイブリット化

バイオエタノールや水素等を使用する車両（フォークリフト）の導入を検討していきます。

友新精機 株式会社

所在地：豊田市前林町
業種：製造業
従業員数：93名

脱炭素経営方針

- 「なくす・へらす・かえる」の取り組みを愚直に進め、カーボンニュートラル実現を目指す。

削減目標
2018▶2030
46%削減

豊田市認証 SDGs Certification SILVER

従業員への脱炭素の理解が進み、取組みペースUPを実感。参加して良かったと思っています。


製造部 次長 伊藤 正一さん
製造部 課長 大山 亨さん
一般 大久保 侑亮さん

脱炭素に向けた取組

① 省エアー

エアー使用時間の短縮・間欠動作・漏れ改善により、CO_2排出量6.5%減を目指します。

② 生産性向上

加工条件・刃具改善・自主保全活動などの非稼働時間を低減します。また、切削加工ノウハウを生かした生産性の向上を目指します。

福田造園土木 株式会社

所在地：豊田市宮町
業種：造園業　従業員数：36名

脱炭素経営方針

- 植物を用いた空間づくりを行い地球環境と向き合う。

脱炭素に関して「何かしなければ」という漠然としたものから「会社としてこの取り組みを行う」という具体的なものになりました。ありがとうございました。


豊田営業所 人事管理部 奥村 美美子さん

削減目標
2024▶2030
40%削減

脱炭素に向けた取組

① 社用車HV化

太陽光の発電量を見ながら社用車のHV化を進めます。敷地内での発電で社用車の充電ができる体制を作ります。

② 太陽光パネル設置

社員の駐車スペースにソーラーカーポートを設置します。車内温度上昇も抑えることができ、個人の省エネもサポートします。

内浜化成 株式会社

所在地：豊田市四郷町　業種：製造業　従業員数：478名

脱炭素経営方針

- 2030年度のCO_2削減目標を2013年度比-50%に設定、低CO_2生産技術の開発・導入と日常改善活動によるCO_2低減活動の推進、温室効果ガスの低減。

豊田市認証 SDGs Certification SILVER

削減目標
2013▶2030
50%削減

他社との交流や意見交換の中で気づきや参考にしたい活動があり、大変有意義時間でした


総務部総務経理課 係長 竹ノ谷 豊さん

脱炭素に向けた取組

① 日常改善と確信技術による省エネ化

生産現場の生産ｴﾈﾙｷﾞｰのﾑﾀﾞ取りによる日常改善と、新工法開発・燃料転換などの革新技術の構築で脱炭素を目指しています。

② 自家発電と調達による再エネ化

再エネの取組として太陽光パネルの設置・追加CO_2フリー電気の段階的調達で脱炭素化の達成を目指します。

株式会社 鬼頭精器製作所

所在地：豊田市中町　業種：製造業　従業員数：45名

脱炭素経営方針

- ものづくりを通じ、持続可能な社会の構築に貢献します。

削減目標
2013▶2030
50%削減

豊田市認証 SDGs Certification SILVER

スクール参加前は脱炭素経営に向けて、具体的に何を、どのように進めていくのか悩んでいましたが、参加してからスムースに進めることができました。


事業企画室・SDGs推進室 渡辺 広之さん

脱炭素に向けた取組

① コンプレッサー改善

2014年にINVコンプレッサーを導入。2020年にはエアー配管を見直し、エアー吐出圧力を0.8Mpaから0.6Mpaへ低減できました。

② 配送ルートの見直し

リードタイム短縮し効率的な配送ルートに変更。また配送業者を活用することで、ガソリン消費削減量8,854ℓ、排出削減量20.5t-CO_2を実現しました。

株式会社 オティックス高岡

●21世紀社会の環境保全に貢献するため、環境との調和のある成長を目指し、全員参加でモビリティー関連部品メーカーとして気候変動、資源枯渇、生物多様性などの環境問題に取り組み、環境マネジメントを推進します。



高岡製造部 施設課施設係 係長
戸次 将孔さん

2019▶ 2027 18% 削減

光生アルミニューム工業株式会社

●環境に配慮した製品・生産活動を通じて、自然と調和した豊かな社会と環境の実現を目指します。
●カーボンニュートラルロードマップに基づき、目標達成に向けて持続可能なものづくりに挑戦します。

豊田市認証 SDGs Certification BRONZE



品質保証部 環境管理G課長
細井 香奈さん

2016▶ 2030 30% 削減

横山興業株式会社

とよた SDGs パートナー

●ピンチをチャンスに、全社一丸で取り組みカーボニュートラルを実現します。
●脱炭素経営の取組の1つとして、自家消費型太陽光の企画提案や設置事業に参入します。



建材部 ソーラーグループ長
杉山 達也さん

2018▶ 2030 30% 削減

トヨキン株式会社

豊田市認証 SDGs Certification BRONZE

●2050年カーボンニュートラルに向けて、社内での省エネ活動の推進と省エネ設備の導入により、CO_2排出量を毎年「昨年比3%以上の削減」に取り組みます。



営業部 執行役員
榊原 良樹さん

2020▶ 2030 37% 削減

株式会社加藤製作所

●脱炭素経営を大きなチャンスと捉え、他社との差別化を行うことで、ビジネスチャンスの創出につなげます。
●ハイブリッド車や電気自動車への移行、太陽光発電設備の増築、研究中である炭化炉利用でCO_2削減を達成します。



総務部 課長
加藤 貴久さん

2022▶ 2030 50% 削減

株式会社 原田工務店

とよた SDGs パートナー　豊田市認証 SDGs Certification BRONZE

●建設を通じて脱炭素を推進するため、脱炭素資材の調達を行い、ICTによる省力施工を取り入れていきます。
●情報を早期に入手し社内外へのPR活動を積極的に行いながら、脱炭素経営の先進的な企業を目指します。



代表取締役
伊東 卓偉さん

2013▶ 2030 50% 削減

株式会社海老澤建設

とよた SDGs パートナー　豊田市認証 SDGs Certification BRONZE

●「子々孫々まで」を合言葉に、『未来に何が残せるか』を考え続ける会社を目指します。
●「なくす・へらす・かえる」の取組みを、内訳まで含めて「見える化」し、自分事とします。
●地盤改良エコジオ工法の施工件数アップにより、地盤改良工事におけるCO_2削減に貢献していきます。



代表取締役
海老澤 咲子さん

2013▶2030 19% 削減

太平産業株式会社

●地域社会の一員として、また環境を担う一企業として、環境保全の重要性を深く認識し、事業活動を通じて環境負荷低減はもとより、より良い環境創造に努め、環境マネジメントシステムの継続的改善を図ります。



第二営業部 顧問(右)
縣 辰典さん
第二営業部 次長(左)
増田 至功さん

2021▶2030 28% 削減

近藤工業株式会社

豊田市認証 SDGs Certification SILVER

●まずは弊社の工場でCO_2排出量が一番高い工場をモデルに、持続可能なCO_2削減取組みとしての社内ESCO活動を推進していきます。
●ESCO活動による、省エネ改善ネタ積み上げ提案から改善実施や継続できる体制づくりに努めていきます。



自動車部品事業部・営業部 参与
相羽 宏泰さん

2019▶2030 25% 削減

株式会社 陣内工業所

とよた SDGs パートナー

●カーボンニュートラルを会社経営の重要課題と位置付けて取り組んでいきます。社内でプロジェクト組織を編成して対応します。
●社内全体を巻き込んだ会議体の形成や、「CN推進担当部署」及び外部講師による社内周知を目的とした勉強会などを行い、カーボンニュートラル推進の体制を強化します。



経理部
入交 拓也さん

2016▶2030 80% 削減

脱炭素経営の取組事例（第４期生の皆さん）

※記載内容はスクール在籍時の情報を掲載しています
最新情報は各企業へお問合せください

株式会社 エイブプラスチックス

所在地：豊田市土橋町　業種：製造業　従業員数：69名

脱炭素経営方針

● 製造工程の電力を再生可能エネルギーへ切り替え、省エネ設備を導入することでCO_2排出量を削減します。また、再生樹脂やバイオマス素材の活用を進め、循環型社会の実現に貢献する脱炭素経営を推進します。

削減目標
2018▶2030
50% 削減

常に改善や改革に努め、循環型社会の実現に貢献できるよう日々邁進してまいります。



業務グループ グループリーダー 高橋 剛 さん

脱炭素に向けた取組

① グループ新設による推進体制の強化

入社3年未満の社員で構成する「環境グループ」を新しく作り、若手の視点で脱炭素経営の取組を推進する体制を強化します。

② 脱炭素化を意識した工場の新設

工場新設にあたり、自動搬送やIoTで省人化と安定品質を実現し、高効率設備で省エネを図ります。また、コスト削減と持続可能な生産を両立し、高付加価値製品を安定供給するスマート工場を目指します（※現在構想段階）。

豊田大谷高等学校（学校法人 尾張学園）

所在地：豊田市保見町　業種：学校教育　従業員数：64名（豊田大谷高等学校）

脱炭素経営方針

● 100年後も子どもたちが屋外で安全に活動できる未来をつくります。
● 脱炭素経営の取組を地域に浸透させるため、地域でイベントを開催します。

教育機関として、未来を担う生徒や子どもたちに脱炭素化の意義を直接伝えることができる点が大きなイチ押しポイントです！



法人事務局 久田 大樹 さん

削減目標
2024▶2035
100% 削減

脱炭素に向けた取組

① 太陽光設備導入

体育館屋上に太陽光設備を導入し、年間55t-CO2の排出量を削減します。
太陽光設備導入に伴い、天井下温度や室内温度の上昇の抑制を図ります。

② 脱炭素を絡めたイベントの実施

廃棄物のアップサイクル活動、日傘の貸出など、脱炭素を考えるイベントを開催します。

株式会社たいへい

所在地：豊田市堤本町　業種：製造業　従業員数：18名

脱炭素経営方針

● 省エネルギー化の観点から各種繊維機械、プラントにおける機械構造を見直し、自家発電を中心とした工場稼働化を目指すことで持続可能な社会に貢献することを目指します。

削減目標
2024▶2035
21%削減

脱炭素に取り組むとともに、エネルギー費削減による収支改善案を作成し、全社一丸となって取組を実施していきます！



常務取締役 太田 喬士 さん

脱炭素に向けた取組

① 既存設備の見直し

コンプレッサーの運用方法やオーブン設備の断熱状況など、既存の設備の見直しを行い、CO_2排出削減を図ります。

② 脱炭素経営の社内推進

毎月の電気・ガスの使用量を誰もが閲覧できる環境を整え、脱炭素に対する全社員の取組み意識の向上を図ります。

大日通信株式会社

所在地：豊田市千足町　業種：電気通信業　従業員数：123名

豊田市認証 SDGs Certification BRONZE　とよた SDGs パートナー

脱炭素経営方針

● できることからコツコツと、地域貢献は基より、環境問題に意欲的な取り組みを維持して、社会貢献することを目指します。

脱炭素スクールに参加して、学ぶ事が多く勉強になりました！今回の学びを社内で展開し、温室効果ガスゼロを目指して取組を進めていきたいと思います！



エンジニアリング事業部 取締役 事業部長 吉見 和剛 さん

削減目標
2020▶ 2030
42% 削減

脱炭素に向けた取組

① 宮口ビル電機設備更改

高圧受電から低圧受電に切り替え、設備投資・維持管理・保守・電気代のトータルで削減効果を検討していきます。

② 脱炭素プロジェクトの立ち上げ

社内で脱炭素を推進するチームを立ち上げ、脱炭素スクールで作成した脱炭素経営計画を進めていく体制を整えていきます。

のだみそ株式会社

所在地：豊田市桝塚西町
業種：食品製造業
従業員数：42名

脱炭素経営方針

● 味噌作りを文化保全事業と位置付け、文化保全と脱炭素を結び付けた新たな軸で取組を発信しながらマーケット開拓を進めていきます。

醸造方法（Scope1）
速醸 ▶ 天然醸造
82% 削減

フードマイレージ（Scope3）
北米産大豆 ▶愛知県産大豆
97% 削減

味噌作りにおける伝統製法やフードマイレージを脱炭素と結び付けることで定量的にその効果を計測し、脱炭素への貢献を事業を通じて発信と提案していきたいと思います。



桝塚味噌4代目 野田 好成 さん

脱炭素に向けた取組

① 醸造方法とフードマイレージの定量的効果検証

天然醸造と愛知県産の大豆使用により、大幅なCO_2排出量の削減が期待できることを発信し、マーケット開拓につなげます。

② 文化・環境を保全する事業の推進

今回の脱炭素スクールで取組んだ醸造方法とフードマイレージの定量的効果検証の結果を世界に伝えていきます。

すまいるサポート株式会社

豊田市認証 SDGs Certification BRONZE

- 地元に根差し、地元中小企業とのパートナーシップを深めながら、もったいない精神を大切に脱炭素経営を進め、持続可能な脱炭素社会の未来に貢献します。
- 遺品整理・片付け業に関連してリサイクル率UPによる脱炭素の効果の数値化方法の検討を進めます。



代表取締役 山下 明宏 さん

2021▶ 2030 20% 削減

中央発條株式会社

- 地球環境保全を自らの社会的責任と考え、あらゆる事業活動を通じ、持続可能な社会の発展に貢献します。
- 気候変動対策のリスク及び機会の特定を行い、脱炭素を含めたSDGs推進した経営をビジネスチャンスと捉え重要課題を全社で共有し、対応しています。



SDGs推進部 SDGs推進G・主担当 高倉直貴 さん

2023▶2035 68% 削減

神星工業株式会社

豊田市認証 SDGs Certification BRONZE

- 「地球環境の保全・改善」と「地域社会との共生」に積極的に取り組みます。社員一人ひとりの意識変革と行動を促し、全社一丸となってカーボンニュートラルの実現に向けた歩みを進めて参ります。
- 各種指標を活用し、脱炭素の活動効果実感と活動加速につなげます。



管理本部・執行職 笹山 泉 さん

中期目標
2021▶ 2030 25% 削減

長期目標
2021▶ 2050 100% 削減

近藤商事土木株式会社

豊田市認証 SDGs Certification BRONZE　とよた SDGs パートナー

- 地球環境に配慮した心づかいのある真摯な取り組みを行い、持続可能な社会づくりに貢献し、気候変動による自然災害応急復旧工事と、災害廃棄物処理支援に適応できるベストミックスな事業活動を目指します。



代表取締役社長 近藤 正臣 さん

2024▶2030 23% 削減

第一電機測器株式会社

- 「地域社会に貢献し、環境保全を考えた『ものづくり』を行う」の実現を目指し、住み続けられる地球にするために、カーボンニュートラルを目指します。



代表取締役 佐々木 勇人 さん

2017▶ 2030 30% 削減

篠澤珪砂工業株式会社

- 天然資源の恩恵に感謝し、持続可能な社会維持のために地域社会の安心・安全な暮らしを両立させる脱炭素社会の実現に取り組みます。



役員 篠澤 秀哉 さん

2024▶ 2030 31% 削減

東海オートメーション株式会社

- カーボンニュートラルに向けて、社員一人ひとりが取組む事を目指し、CO2排出量削減に貢献していきます。



総務部 次長 小﨑 義徳 さん

2018▶2030 50% 削減

～ S・Sコース修了企業 ～

※「S・Sコース」は、SBT認定・Scope3推進に挑戦したい企業のために設けられた特別プログラムです。

豊田市認証 SDGs Certification BRONZE　再エネ100宣言 RE Action　SCIENCE BASED TARGETS

株式会社 アイミクロン

所在地：豊田市本町　業種：製造業　従業員数：10名

脱炭素経営方針

- 省エネ・再エネに取り組むことで、事業基盤の強化や人材獲得力の強化、企業の持続可能性を強化する。



代表取締役 長谷川 功 さん

当社は、
2022年にSBT認定を受け、
「削減することを約束する」と
世界に対してコミットメントしています。
約束したからには、脱炭素経営の
推進を実行していかなければと思い、
第4期スクールから開設された
「S・Sコース」に参加しました！

削減目標
2019▶ 2030
100％ 削減

Scope1・2削減目標は2030年100%、
Scope3削減目標は「排出量を把握し削減することを約束する」

Scope3推進に向けた取組



脱炭素経営の取組事例（第５期生の皆さん）

※記載内容はスクール在籍時の情報を掲載しています
最新情報は各企業へお問合せください

三協高分子 株式会社

所在地：豊田市土橋町　業種：製造業
従業員数：81名

豊田市認証 SDGs Certification BRONZE

脱炭素経営方針

● これからの未来に、より安心安全を顧客様に実感して頂ける指標として『脱・炭素経営』に取り組む。

削減目標
2013▶2030
54%削減

脱炭素スクールに参加して、勉強になりました。今回の学びを社内展開し、取り組みを進めていきたいと思います。



兵藤 三樹 さん　総務課 課長

脱炭素に向けた取組

① 射出成型機等の更新、ハイブリッド車の投入
2027年までに全14台の射出成型機等を電動化、2030年までに全車両をハイブリッド車、電気自動車に更新します。

② 太陽光発電設備などの導入
太陽光パネル新設、蓄電式照明の設置、EV車を順次、導入します。

神星工機 株式会社

所在地：豊田市幸町　業種：製造業
従業員数：163名（国内）

脱炭素経営方針

● 社長がトップとなり全社的推進体制を構築し、カーボンニュートラルに取り組む。

削減目標
2019▶2030
30%削減

本スクールで学んだことを活かし、CO2削減目標を達成できるように頑張っていきたいと思います。



萩木場 博之 さん　経営支援課 課長

脱炭素に向けた取組

① 設備の省エネ（運用改善・設備更新）
現在までの取組は約70件！2025年度までの排出量削減実績は達成目標をクリアしました。この取組を継続します。

② 生産性の改善
工場の集約や工程改善による作業時間短縮、オフサイトPPAの採用等を実施してきました。今後も計画を立てて活動していきます。

共和産業 株式会社

所在地：豊田市衣ヶ原　業種：製造業　従業員数：521名

豊田市認証 SDGs Certification SILVER

脱炭素経営方針

● 基準年を2019年とし、2050年までにカーボンニュートラルを達成する。

削減目標
2019▶2030
50%削減

脱炭素スクールにて学んだ事を社内に共有し、全社一丸でカーボンニュートラルが達成できるよう実施してまいります。



川井 英暢 さん　人事総務部

脱炭素に向けた取組

① 主要設備の省エネ対策を実施
2019年度比で約23%の排出量削減を達成！2030年に向け脱炭素ロードマップを作成して、取組を継続します。

② 再エネ導入とCO2フリー電力など
太陽光発電設備を導入し、削減不足分をCO2フリー電力とJクレジットで補い、財務的に適正な脱炭素経営を進めます。

ミヤマ精工 株式会社

所在地：豊田市本田町　業種：製造業　従業員数：213名

脱炭素経営方針

● サステナブル社会実現に貢献するため、省エネ・歩留まりの高さで優位に立ち、社会の脱炭素に欠かせない企業となる。

削減目標
2019▶2030
50%削減

今回のスクールで他社様との交流ができ、貴重な良い機会となりました。サステナブル社会実現に貢献できる会社になれる様精進していきます。



鶴薗 勝彦 さん　技術部事業開発室 室長



森田 誠 さん　製造部冷鍛室

脱炭素に向けた取組

① 省エネの推進と再エネの導入
設備の運用改善と設備更新、太陽光発電設備導入を進めるとともに、グリーン電力導入の財務諸表を検討します。

② 汎用的な脱炭素技術の開発
コンプレッサなど生産設備の電力監視・データ管理システムを開発し、社会の脱炭素を促進します。

榊原工業 株式会社

所在地：豊田市高丘新町　業種：製造業　従業員数：140名

とよた SDGs パートナー　SCIENCE BASED TARGETS

脱炭素経営方針

● SBT認定に基づく目標を達成するため、Scope 1～3の全カテゴリを網羅した透明性の高い経営を実践する。

削減目標
2018▶2030
50.4%削減

『どう進めればいい？』という共通の悩みや工夫を共有できたことが、一番の収穫でした。学んだ手法を武器に省エネや現場のカイゼンを進めていきます！ スクールでの縁を大切に、地域から必要とされる企業を目指します！



古田 ひとみ さん　経理経営戦略課 課長

脱炭素に向けた取組

① 省エネの推進と太陽光発電の有効活用など
設備の運用改善意識を高める教育の実施、環境配慮型成形機の導入に加え、グリーン電力を計画的に導入します。

② 全員参加の環境活動
社員によるエネルギー使用量の計測、会議時のSDGs協議タイムの実施の他、炭素会計アドバイザーの取得を目指します。

株式会社 協豊製作所

所在地：豊田市トヨタ町　業種：製造業
従業員数：1343名

豊田市認証 SDGs Certification BRONZE

全国みどりの工場大賞 National Award for Greenery Factory

脱炭素経営方針

● 資源やエネルギーの使用量を削減し、環境影響要因の低減を積極的・継続的に取組む。

削減目標
2019▶2030
69%削減

脱炭素スクールで、講師を含め参加者の方々から多くの学びを得ることができて大変刺激を受けました。その知見を社内で共有し、削減目標を目指します！



高橋 幸三 さん　ものづくりの技術部 室長

脱炭素に向けた取組

① 日常改善・革新技術の推進
TPS活動・老朽化設備の更新など現場のムダロスを低減するとともに、設備のダウンサイジング化など革新技術を推進します。

② 組織活動の徹底
経営層の定例会議体で脱炭素取組の進捗を管理し、各部署において取組事例の横展開や情報収集など自分事として取り組みます。

サトープレス工業 株式会社

所在地：豊田市高岡町　業種：製造業　従業員数：250名

脱炭素経営方針

● 全社で改善項目を探して、2030年度の目標達成に向けて活動を進める。

削減目標
2019 ▶2030
27.5% 削減

まだまだ計画も道半ば。スクールで得た知見も参考に全社活動で削減目標達成を目指します！


総務グループ 杉浦覚さん


生産技術グループ 丸山悟史さん

脱炭素に向けた取組

① 省エネの推進と再エネの導入
非稼働設備の停止やエア供給の改善、工場断熱、照明設備の改善を進めるとともに、太陽光発電設備の導入を検討します。

② 業務改善と経営取組
工数削減の一環として労働時間を見直すとともに、廃却の削減や排出係数の低い電力契約を検討します。

三栄工業 株式会社

豊田市認証 SDGs Certification SILVER

所在地：豊田市高岡町　業種：梱包業　従業員数：877名

脱炭素経営方針

● 2030年までに2013年度比▲46%を目指し、全社一体となり2050年にカーボンニュートラル達成に向けた取組を推進します。

削減目標
2013▶ 2030
46% 削減

「脱炭素経営とは何か」について一から学ばせていただきました。今後は自分が主となり、全社一体となって取組を推進していきます。


経営企画部企画課 鈴木奏映さん

脱炭素に向けた取組

①組織体制および管理のしくみの構築
各部門担当者を選定し、「指示待ち型」から脱却。経営層への情報共有および組織全体で主体的かつ継続的な活動推進に努めます。

②脱炭素経営推進の見える化と仕組み化
実態把握、意識向上、太陽光発電の管理体制強化を推進。エネルギー削減と脱炭素活動を加速し、将来的な炭素税負担の抑制にも努めます。

株式会社 メイダイ

豊田市認証 SDGs Certification BRONZE　とよた SDGs パートナー

所在地：豊田市青木町　業種：建設業　従業員数：93名

脱炭素経営方針

● 「物流と住まい作りを通じて豊かな社会を創造する」のもと、環境に優しく品質に拘った企業活動を目指す。

削減目標
2025 ▶ 2030
61% 削減

脱炭素は経営課題に直結する取組みであることをスクールを通じて学びました！


総務・グループ長 松岡樹さん
車輌・次長 内田隆さん
建設・執行役員 深谷俊一さん

脱炭素に向けた取組

① 省エネの推進と再エネの導入
空調設備の運用改善・設備投資改善、廃棄物分別とリサイクル、太陽光発電設備導入などを進めます。

② 業務改善と経営取組
工数低減、陸送高効率化、Jクレジット定期預金などにより排出量削減に取り組みます。

金山建設 株式会社

所在地：豊田市松平町　業種：建設業　従業員数：5名

脱炭素経営方針

● 環境に配慮した土木事業を通じて地域社会の持続可能な発展と安心して暮らせる未来のまちづくりに貢献する。

削減目標
2026▶ 2030
20% 削減

脱炭素経営の取り組み方を知ることができました。現場での脱炭素化の取り組みも進めていきたいです。


工事部 金山紋大さん

脱炭素に向けた取組

① 廃棄物の削減と業務改善など
脱炭素に向けたルール作り、産業廃棄物削減、低炭素材料の活用を進めます。
ICT施工による生産性向上、環境教育などを通じて脱炭素企業を目指します。

株式会社 ＪＰＣ

所在地：豊田市竜神町　業種：製造業　従業員数：143名

脱炭素経営方針

● 省エネと再エネ活用を通じてCO2排出削減に取り組み、持続可能な経営を推進する。

削減目標
2020▶ 2035
40% 削減

脱炭素スクールに参加し、他社の様々な取組を知ることができ、大変勉強になりました。今回の経験で得た知見を活かし、今後の脱炭素活動の推進につなげていきたいと思います。


営業部 長見勇志さん


経営管理部 林秀一さん

脱炭素に向けた取組

① 生産性と物流の改善など
各設備の管理体制構築、設備投資改善などにより、エネルギー単位当たりの生産性を向上します。物流に関わる排出量を減らすため、モーダルシフトを進めます。

大東工業株式会社

豊田市認証 SDGs Certification SILVER

所在地：豊田市西中山町　業種：製造業　従業員数：188名

脱炭素経営方針

● ISO14001の活動計画に組み込み、日常的に脱炭素に向けた取組を行う。

削減目標
2019 ▶2030
19.8% 削減

他社様の活動を拝見し、自社に取り入れられる活動もあり、大変参考になりました。引き続き全社一丸となって脱炭素に取り組んで参ります。


品質環境課 主任 山田恭瑞さん


品質環境課 課長 纐纈牧人さん

脱炭素に向けた取組

① DX化と業務改善など
電力のピーク予測また過剰使用の抑制など省エネ管理の高度化を進め、DX化、AI技術の導入による省人化・生産性向上に取り組み、さらなる脱炭素を進めます。

一般社団法人 ウッディーラー豊田

所在地：豊田市東広瀬町　業種：サービス業　従業員数：5名

脱炭素経営方針と取組

「ものづくりをしたい人」と「森づくりをしている人」をつなぐことで、森と人の距離を近づけ、豊田に住む人、森に関わる人の暮らしと心を豊かにするとともに、社会の脱炭素に貢献します。

これからも森林資源の活用と脱炭素を進めていきます。


代表理事 樋口真明さん

豊田市脱炭素スクール修了生一覧

- 修了生の皆さんは、自社の脱炭素経営に向けた事業計画や取組等を社内外に発信すると共に、脱炭素経営の実践に取り組まれています。

SBT認定	SDGs認証制度 ブロンズ以上	豊田市ｶｰﾎﾞﾝﾆｭｰﾄﾗﾙ 関連補助金
7社	31社	30件活用

※ QRコードを読み取ると、修了生が実施する脱炭素経営の取組を各社のHPからご覧いただくことができます

第1期生（16社）

- 株式会社アイサク（製造業）
- 株式会社アイミクロン（製造業）
- 株式会社市川鉄工所（製造業）
- 有限会社梅村工務店（建設業）
- エヌ電子工業株式会社（製造業）
- おいでんエネルギー株式会社（電気・ガス・熱供給・水道業）
- 株式会社キョウエイファイン（運輸業）
- サンワインダストリー株式会社（製造業）
- 新明工業株式会社（製造業）
- 太啓建設株式会社（建設業）
- 豊田汽缶株式会社（サービス業）
- 豊田電気株式会社（製造業）
- 株式会社日東コンクリート工業（製造業）
- 株式会社ニフコ（製造業）
- 株式会社豊栄商会（製造業）
- 株式会社ユーネットランス（運輸業）

第2期生（7社）

- アール・ティ・エンジニアリング株式会社（製造業）
- 株式会社市川メッキ（製造業）
- 株式会社豊田ガーデン（造園工事業）
- 豊田鋸加工所（サービス業）
- 株式会社松原電機（電気工事業）
- 株式会社マルコオ・ポーロ化工（建設業）
- 三河商事株式会社（小売業）

第3期生（16社）

- 株式会社海老澤建設（建設業）
- 内浜化成株式会社（製造業）
- 株式会社オティックス高岡（製造業）
- 株式会社加藤製作所（製造業）
- 株式会社鬼頭精器製作所（製造業）
- 光生アルミニューム工業株式会社（製造業）
- 近藤工業株式会社（製造業）
- 有限会社近藤工房（製造業）
- 三協高分子株式会社（製造業）
- 株式会社陣内工業所（建設業）
- 太平産業株式会社（産業廃棄物中間処理業）
- トヨキン株式会社（製造業）
- 株式会社原田工務店（建設業）
- 福田造園土木株式会社（造園業）
- 友新精機株式会社（製造業）
- 横山興業株式会社（製造業）

第4期生（13社）

- 株式会社アイミクロン※（製造業）
- 株式会社エイブプラスチックス（製造業）
- 学校法人尾張学園（学校教育）
- 近藤商事土木株式会社（建設業）
- 篠澤珪砂工業株式会社（鉱業，採石業）
- 神星工業株式会社（製造業）
- すまいるサポート株式会社（サービス業）
- 株式会社たいへい（製造業）
- 第一電機測器株式会社（建設業）
- 大日通信株式会社（電気通信業）
- 中央発條株式会社（製造業）
- 東海オートメーション株式会社（製造業）
- のだみそ株式会社（食料品製造業）

※株式会社アイミクロンは第1期及び第4期S・Sコース修了（再掲）

第5期生（13社）

- 一般社団法人ウッディーラー豊田（サービス業）
- 金山建設株式会社（建設業）
- 株式会社協豊製作所（製造業）
- 共和産業株式会社（製造業）
- 榊原工業株式会社（製造業）
- サトープレス工業株式会社（製造業）
- 三栄工業株式会社（梱包業）
- 三協高分子株式会社（製造業）
- 株式会社ＪＰＣ（製造業）
- 神星工機株式会社（製造業）
- 大東工業株式会社（製造業）
- ミヤマ精工株式会社（製造業）
- 株式会社メイダイ（建設業）

※三協高分子株式会社は第3期及び第5期終了（再掲）

豊田市の企業向け脱炭素支援策（令和８年度）

本市における脱炭素関連の主な支援策を紹介します。**詳細は二次元コードをご参照ください。**

相談

●カーボンニュートラル相談窓口（中小企業者向け）

豊田市内に事業所がある中小企業者を対象に、カーボンニュートラルや省エネに関して相談窓口設置。

<ポイント>　①業種不問・無料で相談可　　②専門家によるアドバイス
③オンラインも対面（ものづくり創造拠点SENTAN）も対応

お問合せ先：次世代産業課　TEL０５６５－４７－１２５０

普及

●グリーン電力証書の販売

本市で活動する事業所及び団体を対象に、渡刈クリーンセンターでバイオマス発電した電力から発生した、「グリーン電力証書」を販売。

お問合せ先：環境政策課：TEL０５６５－３４－６６５０

補助金

●豊田市設備投資奨励金

市内で製造業・ソフトウェア業等に属する事業を営む会社が、温室効果ガスの排出量削減等を目的として行う設備投資に要する費用の一部を補助。

対象設備：専ら生産、研究又は開発の用に供する償却資産

最低投資額：中小企業1,000万円、大企業３億円　補助率・上限額：中小企業２０%、大企業１０%

お問合せ先：産業振興課：TEL０５６５－３４－６６４１

●豊田市新エネルギー活用促進補助金

補助対象事業者：市内で製造業、運輸業の一部又はソフトウェア業等を営む中小企業・中堅企業

補助金額：・再エネ発電設備は対象経費の１/２、上限３，０００万円
※豊田市SDGs認証（ゴールド、シルバー）の場合対象経費の２/３、上限４０００万円
・水素活用設備は対象経費の1／2、上限は設備に応じて最高1億円

お問合せ先:産業振興課:TEL0565－34－6641

●豊田市事業者向け外部給電機能付次世代自動車普及促進事業補助金

補助対象事業者：外部給電機能付次世代自動車［プラグインハイブリッド車(PHEV)、電気自動車(BEV)、燃料電池自動車(FCEV)、超小型EV］を自ら使用する目的で購入又はリース契約する市内事業者

補助金額：車両本体価格の５%、上限２２万円

お問合せ先：環境政策課：TEL０５６５－３４－６６５０

●事業者向けとよた・ゼロカーボンドライブ補助金

補助対象事業者：再エネ由来の電気で給電できる次世代自動車及びV2H・充電設備を導入する市内事業者

補助金額：再エネ型BEV/PHEV上限１５０万円、再エネ型V2H上限８５万円、再エネ型充電設備上限３０万円

お問合せ先：環境政策課：TEL０５６５－３４－６６５０

●豊田市事業者向け太陽光発電設備設置事業費補助金

補助対象事業者：①市内事業所に自家消費型の太陽光発電を設置するリース・PPA事業者
①の付帯設備として再エネ型V2Hを導入する市内事業者

補助金額：太陽光PPA・リース　上限２５０万円、再エネ型V2H　上限８５万円

お問合せ先：環境政策課：TEL０５６５－３４－６６５０

●豊田市FCトラック普及促進事業補助金

補助対象事業者：FCトラックを導入し、市内事業者に同トラックを貸与する自動車リース事業者

補助金額：車両区分(大型・小型)により異なる。豊田市SDGs認証による上乗せあり

お問合せ先：環境政策課：TEL０５６５－３４－６６５０

●豊田市カーボンニュートラル水素燃料費差支援補助金

補助対象事業者：市販の燃料電池自動車に供給可能な水素ステーション運用事業者

補助金額：水素１kgあたり７１４円。また、低炭素水素の場合、低炭素水素１kgあたり３６２円加算

お問合せ先：未来都市推進課：TEL０５６５－３４－６９８２

●豊田市FCバス導入補助金

補助対象設備：燃料電池バス（一般乗合バス事業に限る）　補助金額等の詳細は、交通政策課にお問い合わせください。

お問合せ先：交通政策課：TEL０５６５－３４－６６０３

●豊田市FCタクシー導入補助金

補助対象設備：燃料電池タクシー　補助金額等の詳細は、交通政策課にお問い合わせください。

お問合せ先：交通政策課：TEL０５６５－３４－６６０３

減税

●豊田市版環境減税（再生可能エネルギー発電設備減税）

10kW以上2,000kW未満の事業用太陽光発電システム等の固定資産税（償却資産）を課税初年度より3年間1/2とする。（課税標準の特例が適用される場合を除く）

お問合せ先：資産税課：TEL０５６５－３４－６６１３

※令和7年4月1日から取得のものは自家消費型のみが対象です。（ただし、令和7年12月31日までは経済産業大臣の認定を受けた設備も対象になります。）